

17年度 名寄地区コート開き大会（高校・一般） 女子決勝 戦評

フィジック	88	}	28 - 10	}	64	名寄短期大学	
			23 14				
			8 18				
			29 - 21				

主審 桜田
副審 石橋

第1ピリオド

お互いマンツーマンディフェンスで試合開始、相手の様子を伺う。第1ピリオド開始早々フィジックはナンバープレイで攻撃し、内外に攻め短大のファウルを誘う。外角シュートも決まり、更にペースを上げていく。短大は、なかなかペースがつかめなかったが、4分 西永が3Pでの初ゴールから反撃を開始し、5分 山田の投入により流れをつかむ。しかしフィジックも速攻により点を重ねフィジック18点のリードで第1ピリオドを終了した。

第2ピリオド

短大は、第2ピリオド開始から、ディフェンスを2-3のゾーンに変更し、フィジックの高さへの対策とリバウンドの強化を図った。しかし、フィジック 須田が、3Pの連続ゴールで追撃を阻む。3分過ぎ、フィジックはディフェンスを、3-2のゾーンディフェンスに変更。しかし直後に短大 藤本の3Pが決まる。更に4分フィジックのセンター 小松が3ファウルによりベンチに下がったのを機に、ディフェンスリバウンドを取り始め、佐々木の3P等によりフィジックの引き離しをしのいだ。

第3ピリオド

第3ピリオド開始から、フィジックはファウルトラブルにより、ディフェンス・オフenseの動きが止まってしまい、短大 藤川の3P連続ゴール、速攻等で点差を縮められてしまう。また、短大のゾーンディフェンスもうまく機能し、フィジックの得点を8点に抑えた。

第4ピリオド

第4ピリオド開始早々、フィジック 山根の3Pから得点開始。佐藤（亜）がゴール下を堅守しポイントを決めていく。続けて 神戸の速攻、アシストと短大の追撃をかわしていく。短大は 荒矢を中心に得点を重ねるが、フィジックの3-2ゾーンと高さに攻めあぐねる。フィジックは残り3分より1-2-2、1-2-1-1ゾーンプレスを仕掛けるが、うまく機能せず、逆に短大 今 西永に3Pを決められるなど、全員が得点に絡んでいくきっかけを作ってしまう。しかし、最終的にはフィジック 紺野の3P連続ゴールなどで、ディフェンディングチャンピオンとしての力を見せ試合終了となった。

フィジックはシュート力、走力共に短大を上回っており、実力通りの優勝となったが、ディフェンスの面ではいくつかの課題が見えた大会であった。一方短大はコート開き大会初の決勝進出となったが、フィジックの走力と高さはどう対抗していくかが、今後の課題であろう。

戦評 伊藤 恭子